



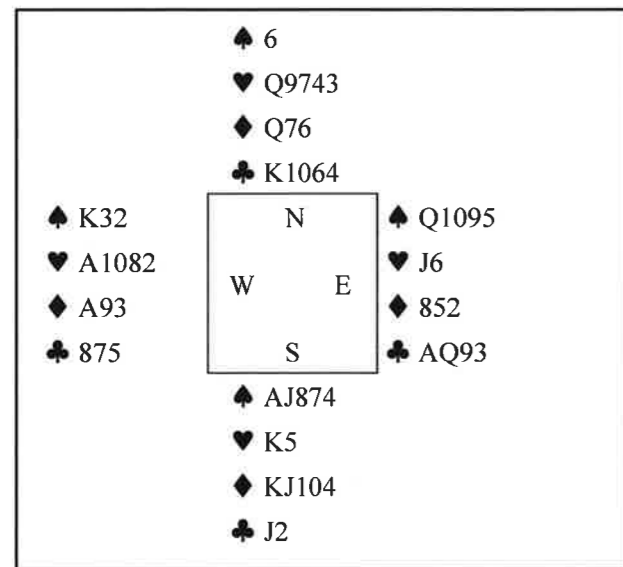
ディフェンス上達のこつ (4)

今回はトランプコントラクト相手の戦略です。相手の「ラフイングパワーを削ぐ」方針、もっと言うと最初からトランプリードをするときです。ダミーに3枚のトランプサポートがあつて、短いスートがあり、それをラフしようとしているとき極めて有効です。よくとりあえず自分の取れるものを取ってダミーを見てからトランプを逆狩りに行く人が居ますが、それでは遅すぎるが多いのです。トランプリードするのは

- 1) 最初のスートがフィットしなくて、セカンドスートが選ばれたようなとき、あるいはセカンドスートがフィットしないのでファーストスートに戻されたようなとき
- 2) こちらにトランプスートが多くある (テークアウトダブルをパートナーがペナルティパスしたときなど)
- 3) ビッドから言ってダミーに短いところがあると思われるときとか、ダミーがNTを嫌ったとき
- 4) ディクレアラ側のすべてのサイドスートにこちらにトリックがあるようなとき
- 5) サクリファイスをしてきたコントラクトのとき

などです。明らかにトランプリードを示唆しているときは、上級者は Qxx からでも平気でxをリードします。仮にこれで損をしたとしてもラフできるトリックを1つ減らしているのですから見返りがあるというものですし、得をすることの方が多いです。パートナーにトランプの何か絵札があれば損にはならないのですから。

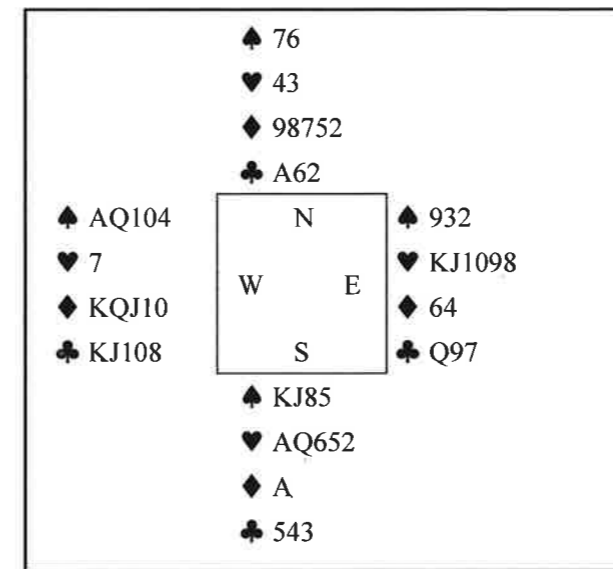
少し例を見てみましょう。



ビッドはSから1S-1NT-2Dで終わります。これはあきらかにダミーはスペードシングルトンかボイドです。こちらにはSKがありディクレアラはスペードにルーザーがあります。これをラフされてはおもしろくありませんから、Wはトランプをリードします。これもエースからではなく、普通スモールからリードします。ディクレアラはスペードを1ラフはできますが、2ラフできないので7トリックしか取れません。これは方針の1)に相当する例です。トランプリードしないと、

2ラフされてしまいます。(もちろんクラブリードでパートナーからトランプリターンでも同じ効果になりますが、クラブをコンティニューする可能性が高くなります。トランプ

逆狩りという方針はオープニングリードからパートナーに伝わらないのです)



方針の2)の例ですが、左のハンドを見て下さい。Sから1Hオープンで、Wはダブルします。Eはこれをペナルティパスするでしょう。このときWはシングルトントランプをリードしなければなりません。決してDKではありません。そうでないとたぶんスペードを1ラフされてしまい、ダブルメークされかねません。EW側から見ると1HXというコントラクトは自分たちが1Hをプレイするつもりでのプレイ方針をとらねばなりません。ということはトランプを刈ってサイドスートを取りに行くということです。だからトランプをリードするのです。

りに行くということです。だからトランプをリードするのです。

(続く)